電話／テレビ電話

■電話／テレビ電話のかけかた

■電話／テレビ電話の受けかた

■電話／テレビ電話に出られないとき、出られなかったとき

■テレビ電話の設定

音声電話／テレビ電話をかける

※N-04Aには内側カメラがないため、テレビ電話で相手に送信する画像は代替画像（キャラ電）または外側カメラの映像になります。なお、代替画像（キャラ電）は「画像選択」でマイピクチャの画像などに変更することができます。→P.75

❶ 相手の電話番号をダイヤル

同一市内への通話でも、必ず市外局番からダイヤルしてください。

電話番号は80桁まで入力できます。ただし、表示されるのは26桁までです。

電話番号入力画面

機能メニュー➡P.56

＜電話番号の入力を間違えたとき＞

■ 番号を挿入する場合

[←→]で挿入したい位置の1つ左の番号にカーソルを移動し、番号を入力します。

■ 番号を削除する場合

[←→]で削除したい番号にカーソルを合わせ、[CLR]を押します。

[CLR]を1秒以上押すと、カーソルのあたっている番号とその左側にあるすべての番号が削除されます。

■ 入力し直す場合

カーソルを番号の先頭か最後に合わせて[CLR]を1秒以上押すと、待受画面に戻ります。

＜テレビ電話＞

■ 代替画像（キャラ電）を変更する場合

▶[ch]［機能］▶「テレビ電話画像選択」▶「キャラ電」▶キャラ電を選択

❷ [発信]（音声電話）、[✉]［テレビ電話］

＜音声電話＞

発信中は「[アイコン]」が点滅し、通話中は点灯します。

■「ツーツー」という話中音が聞こえる場合

相手が話し中です。しばらくたってからおかけ直しください。

■ 電話がかからないことを通知するガイダンスが聞こえる場合

相手の携帯電話の電源が入っていない、または相手が電波の届かない場所にいます。しばらくたってからおかけ直しください。

■ 電話番号の通知をお願いするガイダンスが聞こえる場合

電話番号を通知しておかけ直しください。→P.51、63

通話中画面

機能メニュー➡P.56

＜テレビ電話＞

テレビ電話発信中は「[アイコン]」が点滅し、通話中は点灯します。

テレビ電話中画面

機能メニュー➡P.56

■ テレビ電話がかからなかった場合→P.57

■ 代替画像とカメラ映像を切り替える場合

▶[ch]［機能］▶「代替画像切替」⇔「カメラ画像切替」

■ 親画面表示を切り替える場合

▶[■]（1秒以上）

「親画面表示切替」→P.56

■ 送信するカメラ映像を拡大する場合

▶[←→]でズームを調節

ズームについて→P.227

■ 送信する音声をミュート（消音）する場合

▶[■]［MUTE on］

「MUTE」が点滅します。

再度[■]［MUTE off］を押すと、ミュートが解除されます。

■ ハイパークリアボイスの設定を切り替える場合→P.59

■ 通話中に音声電話、テレビ電話を切り替える場合→P.57

■ 通話中の音声電話、テレビ電話を保留にする場合→P.70

■ FOMA端末で通話するかBluetooth機器で通話する（P.375）かを切り替える場合
▶［通話キー］（1秒以上）

■ 2in1のモードがデュアルモードの場合
発信番号選択画面が表示されます。発信番号を選択してください。

3 通話が終了したら［終話キー］

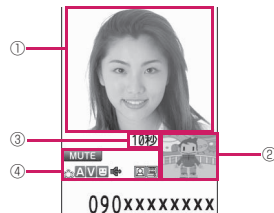
おしらせ

<音声電話>
- 通話中に15秒間ボタン操作が行われなかった場合、省電力モードに移ります。

<テレビ電話>
- FOMA端末から緊急通報番号（110番、119番、118番）へテレビ電話をかけたときは、自動的に音声電話での発信になります。
- テレビ電話中にメールやメッセージR／Fは受信できません（SMSは受信できます）。iモードセンターに保管されますので、テレビ電話終了後に「iモード問い合わせ」を行って受信してください。
- テレビ電話中に代替画像を表示しているときも、デジタル通信料がかかります。
- 充電中に、カメラを使用してのテレビ電話利用とワンセグの録画が同時に行われた場合、FOMA端末の温度状態によっては、まれに、カメラオフになることを通知するメッセージが表示され、自動的にカメラオフへ切り替わることがあります。

テレビ電話画面の見かた

テレビ電話機能は、ドコモのテレビ電話に対応した端末どうしでご利用いただけます。
- ドコモのテレビ電話は「国際基準の3GPP※1で標準化された、3G-324M※2」に準拠しています。ドコモのテレビ電話と異なる方式を利用しているテレビ電話対応端末とは接続できません。
  ※1：3GPP（3rd Generation Partnership Project）
  第3世代移動通信システム（IMT-2000）に関する共通技術仕様開発のために設置された地域標準化団体です。
  ※2：3G-324M
  第3世代携帯テレビ電話の国際規格です。

■テレビ電話画面

①親画面（お買い上げ時は相手側のカメラ映像を表示）
②子画面（お買い上げ時は自分側の代替画像（キャラ電）を表示）
③通話時間
④各種機能の設定内容

［アイコン］［アイコン］：ハイパークリアボイス（ふつう／強め）
［アイコン］［アイコン］：音声送受信中／送受信失敗
［アイコン］［アイコン］：映像送受信中／送受信失敗
［アイコン］［アイコン］［アイコン］：カメラ映像／代替画像／キャラ電送信中
［アイコン］［アイコン］：ハンズフリーON／OFF
MUTE（点滅）：ミュート中（消音中）
［アイコン］［アイコン］［アイコン］：撮影モード（人物／風景／接写）
［アイコン］［アイコン］［アイコン］：キー操作モード（DTMFモード※1／全体アクションモード※2／パーツアクションモード※2）

※1：「DTMF送信／DTMF解除」→P.56
※2：「キャラ電を利用する」→P.74

機能 電話番号入力画面（P.54）

発信者番号通知→P.63

プレフィックス→P.64

着もじ→P.62

国際電話発信→P.65

マルチナンバー→P.401

電話帳登録→P.81

ｉモードメール作成※……電話番号を宛先に貼り付け、ｉモードメールを作成します。

テレビ電話画像選択……テレビ電話中に送信する代替画像を選択します。

※：2in1のモードがBモードの場合は利用できません。

機能 通話中画面（P.54）

通話機切替……FOMA端末で通話するかBluetooth機器で通話する（P.375）かを切り替えます。

直デン……直デン画面が表示されます。

電話帳……電話帳一覧画面が表示されます。

リダイヤル……リダイヤル一覧画面が表示されます。

着信履歴……着信履歴一覧画面が表示されます。

通話中音声メモ→P.363

機能 テレビ電話中画面（P.54）

代替画像切替⇔カメラ画像切替……代替画像とカメラ映像を切り替えます。

親画面表示切替……親画面の表示を切り替えます。
切り替えるたびに「親画面に相手側のカメラ映像を表示」→「親画面に自分側の画像を表示」→「相手側のカメラ映像のみを表示」→「自分側の画像のみを表示」の順で画面が切り替わります。

通話機切替……FOMA端末で通話するかBluetooth機器で通話する（P.375）かを切り替えます。

テレビ電話設定……テレビ電話の画面について設定します。

- **送信画質設定**……相手に送信する映像と相手から受信する映像を「標準、画質優先、動き優先」から選択します。
通話中のみ設定が保持されます。
- **明るさ調節**※……カメラ映像の明るさを「－2～＋2」の5段階で調節します。
- **ホワイトバランス設定**※→P.220（撮影メニュー項目）
- **色調切替**※……カメラ映像の効果を「通常、セピア、白黒」から選択します。通話中のみ設定が保持されます。
- **撮影モード選択**※→P.220（撮影メニュー項目）

キャラ電設定……キャラ電を利用している場合は以下の設定ができます。カメラ映像のときは設定できません。

- **キャラ電切替、アクション一覧、アクション切替**→P.314（機能メニュー項目）
- **静止画切替**……相手側の画面に「代替画像選択」（P.75）で設定した画像を表示します。

照明設定……バックライトを常時点灯するか、「照明設定」の「通常時」の設定に従って点灯するかを設定します。

通話中音声メモ→P.363

自局番号……テレビ電話中にお客様の電話番号を表示します。

DTMF送信⇔DTMF解除……キャラ電中にプッシュ信号の送信モードを設定、解除します。
キャラ電以外のテレビ電話中は常にプッシュ信号モードになります。

音声電話切替→P.57

※：代替画像による通話の場合は利用できません。

● テレビ電話がかからなかった場合

テレビ電話がかからなかったときは、接続できなかった理由が表示されます。

- 状況によっては接続できなかった理由が表示されない場合があります。
- 接続する相手の電話機種別やネットワークサービスのご契約の有無により、実際の相手の状況と理由表示が異なる場合があります。

表示	理由
番号をご確認の上おかけ直しください	使われていない電話番号にかけた場合
お話中です	相手がお話し中の場合 • 相手の端末によっては、パケット通信中の場合にも表示されることがあります。
パケット通信中です	相手がパケット通信中の場合
電波の届かない所にいるか電源が切れています	相手が圏外にいる、または電源が入っていない場合
転送致しますのでお待ち下さい	転送中の場合（転送先が3G-324Mに準拠したテレビ電話対応端末であればテレビ電話にかかります）
音声電話でおかけ直しください	転送先がテレビ電話非対応の場合
電話番号を通知しておかけ直しください	相手が番号通知お願いサービスを設定している場合
この電話番号へはおつなぎできません	相手が迷惑電話ストップサービスを設定している場合
上限額を超過しているため接続出来ません	リミット機能付料金プラン（タイプリミット、ファミリーワイドリミット）の上限額を超えている場合
接続できませんでした	発信者番号非通知で接続した場合（ビジュアルネットなどへの発信時） • 上記以外の場合にも表示されることがあります。 発信者番号非通知を「通知する」に設定の上、おかけ直しください。
ｉモードから接続してください	ｉモード公式サイトを閲覧しないでテレビ電話をかけてVライブを視聴しようとした場合

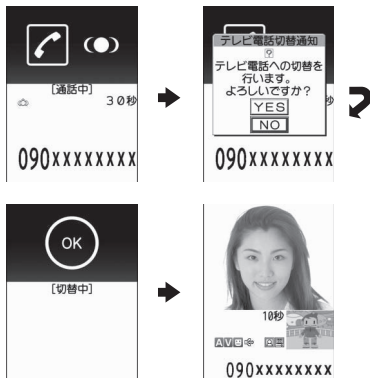
- テレビ電話に対応していない電話機にかけた場合、「音声自動再発信」を「ON」に設定していると、自動的に音声電話に切り替えて発信します。ただし、ISDNの同期64Kのアクセスポイント、3G-324Mに対応していないISDNのテレビ電話など（2008年12月現在）にかけたときや間違い電話をしたときなどは、正しい動作にならないことがあります。また、通信料金が発生する場合もありますのでご注意ください。

通話中に音声電話／テレビ電話を切り替える

- 音声電話⇔テレビ電話切り替え対応端末どうしでご利用いただけます。
- 切り替え操作は、発信側からのみ行うことができます。
- 切り替え操作を行うには、あらかじめ着信側が「テレビ電話切替機能通知」を通知するように設定しておく必要があります。→P.75

<例：音声電話からテレビ電話に切り替える場合>

1 通話中画面（P.54）▶■［テレビ電話］▶「YES」

切り替え中は、切り替え中であることを示す画面が表示され、音声ガイダンスが流れます。

この画面からデジタル通信料がかかります。

■ テレビ電話から音声電話に切り替える場合

▶テレビ電話中画面（P.54）▶ch［機能］▶「音声電話切替」

おしらせ

- 切り替えには、5秒程度の時間がかかります。なお、電波の状態などにより、切り替えるまでに時間がかかることがあります。
- 以下の場合は、通話中に音声電話とテレビ電話を切り替えることができません。
  - 相手側が通話を保留にしているとき
  - 相手側が伝言メモを起動したとき
- 表示されている通話時間は、通話を切り替えるたびに0秒にリセットされます。ただし、通話終了後は音声電話とテレビ電話の合計時間が表示されます。
- 相手側の利用状態や電波の状態などにより、切り替えることができず、通話が切断されることがあります。
- 切り替え操作を行った場合でも、リダイヤル／発信履歴、着信履歴には、最初に発信または着信した電話の履歴が記憶されます。

<音声電話⇒テレビ電話切り替え時>

- 発信側がｉモード中の場合は、ｉモード接続を切断してテレビ電話に切り替えます。
- 相手側がパケット通信中（ｉモード含む）の場合は、切り替えできません。
- 「キャッチホン」が動作しているときは、切り替えることができません。

通話中にハンズフリーを利用する 〈ハンズフリー〉

通話中の相手の音声をスピーカーから流して通話します。

1 通話中画面（P.54）▶✉［スピーカーON］▶「YES」

ハンズフリー通話中は「スピーカーアイコン」が表示され、相手の音声がスピーカーから流れます 。

呼出中に✉［スピーカーON］⇔［スピーカーOff］を押してハンズフリーを切り替えることもできます。

音声電話の場合

テレビ電話の場合

■ ハンズフリーを解除する場合

▶ハンズフリー通話中に✉［スピーカーOff］

音声電話の場合は「スピーカーアイコン」が消えます。テレビ電話の場合は「スピーカーアイコン」が「スピーカーアイコン」に変わります 。

● ハンズフリーを利用するときは

ハンズフリー通話では、FOMA端末から約30cm程度離して使用することを推奨します。これより離れたり近づき過ぎたりすると、相手側で聞き取り難い場合や、音声の聞こえ方が変わることがあります。

おしらせ

- ほかの人の迷惑にならないような場所へ移動してハンズフリーに切り替えてください。
- 通話が終了すると、ハンズフリーの設定は解除されます。

通話中の相手の声を明瞭にする 〈ハイパークリアボイス〉

周囲の騒音を検知し、音声電話やテレビ電話の相手の声を聞きやすくします。

- ハンズフリーが「ON」の場合や、イヤホンマイク（別売）などの外部機器に接続している場合は、本機能は無効になります。

1 通話中画面（P.54）▶
[i] [(◉))) ⇒ (◉)Off ⇒ (◉))]

[i]を押すごとに「強め」→「OFF」→「ふつう」が切り替わります。

音声電話の場合

テレビ電話の場合

強め……周囲の騒音レベルに関係なく、静かな環境でも動作します。

ふつう……周囲の騒音レベルが高いときのみ動作します。

OFF……本機能は動作しません。

■ **メインメニューから設定する場合**
▶[MENU]▶「SETTINGS／SERVICE」▶「通話」▶「ハイパークリアボイス」▶「強め」「ふつう」または「OFF」

おしらせ

- 本機能によって音質や音量が変化しますので、お好みに応じて設定してください。
- 相手の声や、個人差によって効果が異なる場合があります。
- 本機能は本体マイクで検出した周囲騒音に応じて動作しますので、ご自身の声によっても動作することがあります。

リダイヤル／発信履歴／着信履歴を利用する 〈リダイヤル／発信履歴／着信履歴〉

かけたり、かかってきた相手の電話番号や日付・時刻などの情報は、リダイヤル／発信履歴／着信履歴として記憶されます。これらを利用して相手に簡単に電話をかけられます。

- 同じ電話番号に繰り返し発信すると、リダイヤルには最新の1件が、発信履歴には別の1件として情報が記憶されます。
- リダイヤルは音声電話とテレビ電話の電話番号を30件まで記憶できます。
- 発信履歴／着信履歴は音声電話とテレビ電話の履歴を30件、パケット通信と64Kデータ通信の履歴を30件まで記憶できます。
- 履歴が最大件数を超えた場合は、古い履歴から順に上書きされます。

<例：リダイヤル、着信履歴の一覧画面から電話をかける場合>

1 待受画面表示中▶[→]（リダイヤル）、[←]（着信履歴）

■ **発信履歴を確認する場合**
▶[MENU]▶「OWN DATA」▶「発信履歴」

例：リダイヤル画面（一覧）

機能メニュー➡P.60

2 リダイヤル、着信履歴を反転

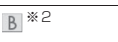
■ **リダイヤル、着信履歴の詳細を確認してから電話をかける場合**
▶リダイヤル、着信履歴を選択

例：リダイヤル画面（詳細）

機能メニュー➡P.60

3
[✆]（音声電話）、[✉]［テレビ電話］

電話／テレビ電話

● 不在着信の件数を確認する

■ 着信履歴から不在着信だけを確認する場合

▶MENU▶「OWN DATA」▶「着信履歴」

全着信の件数、不在着信の件数、および不在着信のうち未確認の件数が表示されます。

「不在着信」を選択すると、不在着信のみ表示されます。

■表示されるリダイヤル/発信履歴/着信履歴のアイコンについて

アイコン※1	説明
電話/不在/不在	音声電話の発着信/不在着信/未確認不在着信
INT'L電話/INT'L不在/INT'L不在	国際音声電話の発着信/不在着信/未確認不在着信
電話/不在/不在	テレビ電話の発着信/不在着信/未確認不在着信
INT'L電話/INT'L不在/INT'L不在	国際テレビ電話の発着信/不在着信/未確認不在着信
B ※2	2in1のBモードの発着信
伝言/伝言	音声伝言メモ/テレビ電話伝言メモに用件が録音/録画されているもの
	着もじの付いた着信
パケット・パケット/不在/不在	パケット通信の発着信/不在着信/未確認不在着信
64k/不在/不在	64Kデータ通信の発着信/不在着信/未確認不在着信
接続ナシ	外部機器が接続されていないときに受けたパケット通信や64Kデータ通信の着信
GMT	「自動時刻時差補正」(P.50)の設定にかかわらず、タイムゾーンが「GMT+09」以外のときの発着信(サマータイムが設定されている場合は、サマータイムの設定を反映して表示)

※1：詳細表示画面と一覧表示画面では、一部見えかたが異なるものがあります。

※2：2in1のモードがデュアルモードの場合のみ表示されます。

おしらせ

- 2in1利用時にはそれぞれの電話番号ごとに30件まで記憶できます。また、デュアルモードに設定している場合は、両方のリダイヤル/発信履歴/着信履歴が30件ずつ、最大60件まで表示されます。

おしらせ

<リダイヤル/発信履歴>

- マルチナンバーを機能メニューから選択して発信した場合、リダイヤル画面(詳細)/発信履歴画面(詳細)の電話番号の下に、付加番号の登録名と番号が表示されます。機能メニューを利用せずに発信した場合は、「通常発信番号設定」を付加番号に設定していても、何も表示されません。

<着信履歴>

- 「呼出時間表示設定」の「時間内不在着信表示」を「表示しない」に設定しているとき、「無音時間設定」で設定した時間より呼出時間が短い着信を受けた場合は、着信履歴に表示されません。
- 相手がダイヤルインを利用している場合、ダイヤルイン番号とは異なった番号が表示されることがあります。
- 同じ電話番号を異なる名前で複数の電話帳に登録している場合、着信履歴には、電話帳のフリガナの検索順に従って電話帳の名前が表示されます。→P.83
- マルチナンバーの契約をしている場合、着信履歴画面から発信すると「通常発信番号設定」の設定にかかわらず、着信を受けた番号で発信します。
- マルチナンバーの付加番号に着信した場合、着信履歴画面(詳細)の電話番号の下に、付加番号の登録名が表示されます。

機能 リダイヤル画面/発信履歴画面/着信履歴画面(P.59)

発信者番号通知※1→P.63

プレフィックス※1→P.64

着もじ※1→P.62

国際電話発信※1→P.65

2in1/マルチナンバー※1……2in1設定がONでデュアルモードのときは「Aナンバー、Bナンバー、設定消去」(P.405)から選択します(Aモード、Bモードのときは利用できません)。
2in1設定がOFFのときはマルチナンバーの「基本契約番号、付加番号1、付加番号2、設定消去」(P.401)から選択します。

呼出時間表示※2※3……不在着信履歴が表示され、呼出時間が表示されます。

電話帳登録→P.82

電話帳参照……「リダイヤルや発信履歴などから電話帳を呼び出す」→P.84

デスクトップ貼付→P.109

iモードメール作成※4……電話番号を宛先に貼り付け、iモードメールを作成します。

SMS作成※4……電話番号を宛先に貼り付け、SMSを作成します。

居場所を確認……ｉモードサイトに接続し、電話番号からイマドコかんたんサーチを実行します。

送信アドレス一覧※5※6**、受信アドレス一覧**※2……それぞれの一覧画面を表示します。

テレビ電話画像選択……テレビ電話中に送信する代替画像を選択します。

拡大表示⇔標準表示※3……表示する名前の文字サイズを切り替えます。

削除……「1件削除、選択削除、全削除」から選択します。

※1：詳細表示画面でのみ利用できる機能です。
※2：着信履歴画面でのみ利用できる機能です。
※3：一覧表示画面でのみ利用できる機能です。
※4：2in1のモードをAモードまたはデュアルモードにし、Aモードの履歴を選択している場合のみ利用できる機能です。
※5：リダイヤル画面、発信履歴画面でのみ利用できる機能です。
※6：2in1のモードがBモードの場合は利用できません。

おしらせ

- リダイヤル画面／発信履歴画面から「全削除」を行うと、リダイヤルと発信履歴の両方がすべて削除されます。
- 2in1設定がONのときにリダイヤル画面／発信履歴画面／着信履歴画面から「全削除」を行うと、2in1のモードにかかわらず、Aモード・Bモードのすべてのリダイヤル／発信履歴／着信履歴が削除されます。

＜ｉモードメール作成＞

- 電話番号が電話帳に登録されていて、その電話帳にメールアドレスが登録されている場合、登録されているメールアドレスを宛先としたメールを作成します。メールアドレスが複数登録されている場合は1番目のメールアドレスを宛先とします。

着もじを使う 〈着もじ〉

音声電話やテレビ電話をかける際、呼び出し中に相手側へメッセージ（着もじ）を送り、あらかじめ用件などを伝えます。

- お買い上げ時には5件登録されており、お買い上げ時に登録されている着もじの内容は変更できます。
- 着もじには絵文字や顔文字を含めることができ、絵文字／記号／全角／半角問わず10文字まで送れます。
- 着もじの詳細や対応機種については、ドコモのホームページまたは『ご利用ガイドブック（ネットワークサービス編）』をご覧ください。

メッセージの登録／編集や設定をする

1 MENU▶「SETTINGS／SERVICE」▶「サービス」▶「着もじ」▶以下の項目から選択

メッセージ作成……よく使う着もじを登録または変更します。最大30件（お買い上げ時に登録されている5件を含む）まで登録できます。
▶登録または変更する項目を反転▶✉［編集］▶着もじを入力
■ メッセージを削除する場合
▶ch［機能］▶「削除」▶削除方法を選択

メッセージ表示設定……着もじが付いた着信があったときの着もじの表示条件を「すべて表示、電話帳登録番号のみ、番号通知ありのみ、表示しない」から選択します。

メッセージ3D表示……3Dアニメーションで表示するかしないかを設定します。

おしらせ

- お買い上げ時に登録されている着もじは削除できません。お買い上げ時に登録されている着もじを変更し、その着もじを削除しても、お買い上げ時の内容に戻ります。

メッセージを付けて電話をかける

「電話番号入力画面」や「電話帳」「リダイヤル／発信履歴／着信履歴」の詳細画面から音声電話やテレビ電話をかける際に、着もじを付けることができます。

<例：電話番号入力画面から着もじを付けて電話をかける場合>

1 電話番号入力画面（P.54）▶ch［機能］▶「着もじ」▶以下の項目から選択

メッセージ作成……着もじを入力します。10文字まで入力できます。

メッセージ選択……登録済みの着もじから選択します。
メッセージ選択画面で✉［編集］を押して、着もじの内容を編集することもできます。

送信メッセージ履歴……過去に送信した着もじから選択します。送信メッセージ履歴画面で✉［編集］を押して、着もじを編集することもできます。

■ 入力した着もじを消去（着もじなしで発信）する場合
▶ch［機能］▶「着もじ」▶「メッセージ作成」▶入力されている着もじをすべて消去

2 ✆（音声電話）、✉［テレビ電話］

着もじが相手側の端末に届いた場合、「送信しました」という送信結果が表示されます。

おしらせ

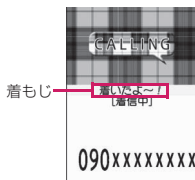
- 着もじの送信には送信料金がかかります。なお、受信側に料金はかかりません。
- 送信メッセージ履歴には送信した着もじを30件まで記憶できます（2in1利用時は、それぞれのモードでの送信メッセージ履歴を30件まで、デュアルモードの場合は、両方の送信メッセージ履歴を30件ずつ、最大60件まで記憶できます）。同じ着もじを繰り返し送信した場合、最新の1件だけが記憶されます。また、最大件数を超えた場合、古いものから順に上書きされます。

おしらせ

- 着信側が以下の場合などは、着もじを送信できません。このとき送信料金はかかりません。
  - 着もじ対応端末でない場合（「送信できませんでした」と表示されます）
  - 着信側の「メッセージ表示設定」により、発信側の着もじが着信側に表示されない場合（「送信できませんでした」と表示されます）
  - 公共モード（ドライブモード）設定中の場合
  - 伝言メモの呼出時間を0秒に設定している場合
  - 「圏外」または電源が入っていない場合
- 電波状態によっては、相手側の端末に着もじが届いていても発信側に送信結果が表示されない場合があります。この場合、送信料金はかかります。
- 海外での利用時は、着もじを送受信することができません。

● メッセージが付いた音声電話やテレビ電話を受けると

着もじが着信中画面に表示されます。なお、通話を開始すると着もじは消えます。

- 着もじを受信すると、3Dアニメーションで表示されます。

例：音声電話

おしらせ

- 「呼出時間表示設定」の「無音時間設定」で設定した時間より呼出時間が短い着信であっても、着もじは表示され、着信履歴にも着もじは残ります。
- 絵文字によっては3Dアニメーションで表示されないものがあります。
- 着信側や発信側の状態によっては、着もじが付いた着信であっても、着もじが表示されない場合があります。
- 「着もじ」にオリジナルロックを設定していると、着もじが付いた着信があっても表示されません。この場合、ロック解除後に着信履歴で着もじの内容を確認できます。

● 着信履歴からメッセージを表示する

着もじを受信すると、着信履歴に「✎」のアイコンが表示され、「着信履歴画面（詳細）」で着もじの内容を確認できます。

おしらせ

● 着信履歴を利用して電話をかけた場合でも、履歴に残されている着もじは送信されません。

電話をかけるときに通知／非通知を設定する

相手の電話番号の前に「186」／「184」を付けてダイヤルする

電話番号を通知する場合は相手の電話番号の前に「186」を、通知しない場合は「184」を付けてダイヤルします。

■電話番号を通知する場合

186－［相手先の電話番号］▶［✆］（音声電話）、［✉］［テレビ電話］

■電話番号を通知しない場合

184－［相手先の電話番号］▶［✆］（音声電話）、［✉］［テレビ電話］

機能メニューから通知／非通知を選択する

「電話番号入力画面」および「電話帳／着信履歴／発信履歴／リダイヤル」の各詳細画面の機能メニューから通知／非通知を選択します。

<例：電話番号入力画面から音声電話をかける場合>

1 相手の電話番号を入力

2 [ch]［機能］▶「発信者番号通知」▶「通知しない」または「通知する」

■「発信者番号通知」を解除する場合

▶「設定消去」

「設定消去」を選択すると「発信者番号通知設定」で設定した内容になります。

3 [✆]（音声電話）、[✉]［テレビ電話］

プッシュ信号を送る〈ポーズダイヤル〉

FOMA端末からプッシュ信号を送って、チケットの予約、銀行の残高照会などのサービスを利用できます。

プッシュ信号として送るダイヤルデータをポーズダイヤルにあらかじめ登録し、送信します。p（ポーズ）を入力しておくと、ポーズが入力されている箇所でダイヤルデータを区切りながら送出できます。

● 登録できるダイヤルデータは1件のみです。
● ダイヤルデータに登録できる文字は0～9、#、＊、p（ポーズ）です。
● p（ポーズ）をダイヤルデータの先頭に入力したり、連続して入力することはできません。

1 [MENU]▶「SETTINGS／SERVICE」▶「発信」▶「ポーズダイヤル」

■ すでにダイヤルデータが登録されている場合

登録されているダイヤルデータが表示されます。

表示されているダイヤルデータをそのまま送る場合は操作3に進みます。

■ ダイヤルデータを削除する場合

▶[ch]［機能］▶「削除」

2 [✉]［編集］▶ダイヤルデータを入力

[0]～[9]、[#]、[＊]を押してダイヤルデータを入力してください。

■ p（ポーズ）を入力する場合

▶[＊]（1秒以上）

3 [■]［送信］▶送信先の電話番号をダイヤル

入力した電話番号に電話がかかり、呼出中になると最初のp（ポーズ）までのダイヤルデータが表示されます。p（ポーズ）は表示されません。

4 [✆]

[✆]を押すたびに、p（ポーズ）までのダイヤルデータが送出されます。最後の番号を送り終えると通話中画面になります。

■ ダイヤルデータをまとめて送出する場合

▶[□]（1秒以上）▶「一括送出」

相手によっては一括送出できない場合があります。

おしらせ

● 受信側の機器によっては、プッシュ信号を受信できない場合があります。

プレフィックス機能を利用する

国際アクセス番号や発信者番号の通知／非通知（186／184）など、電話番号の先頭に付くプレフィックス番号をあらかじめ登録しておき、電話をかけるときに付加します。

プレフィックス番号を登録する 〈プレフィックス設定〉

- プレフィックスは7件まで登録できます。
- 番号に登録できる文字は0～9、#、*、＋です。

1. MENU▶「SETTINGS／SERVICE」▶「発信」▶「プレフィックス設定」
   - ■ プレフィックスを削除する場合
     ▶ch［機能］▶削除方法を選択
2. 登録または変更する項目を反転▶✉［編集］
3. 登録名を入力
4. 番号（プレフィックス）を入力

プレフィックス番号を付加して電話をかける 〈プレフィックス〉

- プレフィックス番号を付加できるのは「電話番号入力画面」および「電話帳／着信履歴／発信履歴／リダイヤル」の各詳細画面です。

<例：電話番号入力画面でプレフィックス番号を付加して音声電話をかける場合>

1. 相手の電話番号を入力
2. ch［機能］▶「プレフィックス」▶登録名を選択▶📞

国際電話を利用する 〈WORLD CALL〉

WORLD CALLはドコモの携帯電話からご利用いただける国際電話サービスです。
FOMAサービスをご契約のお客様はご契約時にあわせて「WORLD CALL」もご契約いただいています（ただし、不要のお申し出をされた方を除きます）。

- 通話先は世界約240の国と地域です。
- 「WORLD CALL」の料金は毎月のFOMAの通話料金と合わせてご請求いたします。
- 国際電話をかけるには電話番号を直接ダイヤルしてかける方法以外に、「+」を利用してかけたり、「電話番号入力画面」および「電話帳／着信履歴／発信履歴／リダイヤル」の各詳細画面の機能メニューから「国際電話発信」や「プレフィックス」を選択してかけることができます。
- 一部ご利用になれない料金プランがあります。

WORLD CALLについてのご不明な点は、取扱説明書裏面の総合お問い合わせ先をご覧になりお問い合わせください。

海外の特定3G携帯端末をご利用のお客様に対し、下記ダイヤル方法の後に✉［テレビ電話］で発信すれば「国際テレビ電話」がご利用いただけます。
- 接続可能な国および通信事業者などの情報についてはドコモのホームページをご覧ください。
- 国際テレビ電話の接続先の端末により、FOMA端末に表示される相手側の画像が乱れたり、接続できない場合があります。

電話番号をダイヤルして国際電話をかける

1. 010→国番号→地域番号（市外局番）→相手先電話番号の順にダイヤル
   地域番号（市外局番）が「0」ではじまる場合には、「0」を除いてダイヤルしてください。ただし、イタリアの一般電話などにおかけになる場合は「0」が必要です。
   009130→010→国番号→地域番号（市外局番）→相手先電話番号の順にダイヤルしてもかけられます。
2. 📞
   国際電話がかかります。

簡単な操作で国際電話をかける

- 国番号や国際アクセス番号は「国際ダイヤルアシスト設定」で登録できます。

●「+」を利用して国際電話をかける

「+」が「自動変換機能設定」で設定した「国際アクセス番号」に置き換わり、国際アクセス番号をダイヤルすることなく、国際電話をかけることができます。

- お買い上げ時は「国際ダイヤルアシスト設定」の「自動変換機能設定」が「ON」(自動付加)に設定されているため、国際アクセス番号が自動的にダイヤルされます。

1 待受画面表示中に、+(0(1秒以上))→国番号→地域番号(市外局番)→相手先電話番号の順にダイヤル

地域番号(市外局番)が「0」ではじまる場合には、「0」を除いてダイヤルしてください。ただし、イタリアの一般電話などにおかけになる場合は「0」が必要です。

2 [発信キー]▶「発信」

国際電話がかかります。

■「+」を国際アクセス番号に変換しないでかける場合

▶「元の番号で発信」

■ 電話をかけるのをやめる場合

▶「中止」

● 機能メニューから国際電話をかける

機能メニューから国番号や国際アクセス番号を付加し、国際電話をかけます。

- 国際電話発信機能が利用できるのは「電話番号入力画面」および「電話帳/着信履歴/発信履歴/リダイヤル」の各詳細画面です。

<例:電話番号入力画面で国際電話発信機能を利用する場合>

1 相手の電話番号をダイヤル

2 ch[機能]▶「国際電話発信」▶国番号を選択▶国際アクセス番号を選択

選択した国番号と国際アクセス番号が付加されます。地域番号(市外局番)が「0」ではじまる場合は自動的に先頭の「0」が削除されます(ただし、国番号で「イタリア」を選択した場合を除く)。

3 [発信キー]

国際電話がかかります。

おしらせ

- 通信事業者によっては、発信者番号通知を設定していても、発信者番号が通知されなかったり、正しく番号表示されないことがあります。この場合、着信履歴画面から電話をかけることはできません。

国際電話の設定をする〈国際ダイヤルアシスト設定〉

国際電話を発信するときの「+」の自動変換の設定を変更したり、国番号、国際アクセス番号を編集、登録することができます。

1 MENU▶「SETTINGS/SERVICE」▶「発信」▶「国際ダイヤルアシスト設定」▶以下の項目から選択

自動変換機能設定……国際電話をかけるときの「+」の自動変換について設定します。

▶「ON」▶国番号を選択▶国際アクセス番号を選択

■自動変換しない場合

▶「OFF」

国番号設定……国際電話をかけるときに使用する国名と国番号を最大22件登録できます。国番号についてはドコモのホームページをご覧ください。

▶項目を反転▶✉[編集]▶国名称を入力▶国番号を入力

■ 国番号を削除する場合

▶ch[機能]▶「削除」▶削除方法を選択

国際プレフィックス設定……国際電話をかけるときに使用する国際アクセス名と国際アクセス番号を登録します。3件まで登録できます。

▶登録または変更する項目を反転▶✉[編集]▶国際アクセス名を入力▶国際アクセス番号を入力

■国際プレフィックスを削除する場合

▶ch[機能]▶削除方法を選択

サブアドレスを指定して電話をかける 〈サブアドレス設定〉

電話番号に含まれる「＊」を区切り文字とし、「＊」以降をサブアドレスとして認識するかしないか（ON、OFF）を設定します。
- サブアドレスはISDNで特定の通信機器へ指定着信するときや「Vライブ」でコンテンツを選択するときなどに利用します。

1 MENU▶「SETTINGS／SERVICE」▶「発信」▶「サブアドレス設定」▶「ON」または「OFF」

おしらせ
- 以下のような場合、「＊」はサブアドレスの区切り文字にはなりません。「＊」も含めて普通の電話番号として認識されます。
  - 電話番号の先頭に「＊」がある場合
  - 電話番号の先頭に「186／184」があり、その直後に「＊」がある場合
  - 「プレフィックス」で入力した番号の直後に「＊」がある場合
  - 電話番号内に「＊590#／＊591#／＊592#」がある場合

再接続するときのアラームを設定する 〈再接続機能〉

FOMA端末は音声通話中やテレビ電話中に電波の状態が悪くなって通話が途切れても、すぐに電波の状態がよくなった場合には自動的に通話を再接続します。本機能では通話を再接続しているときのアラームの鳴りかたを設定します。
- ご利用状態や電波の状態により、再接続が可能な時間は異なります。約10秒間が目安です。

1 MENU▶「SETTINGS／SERVICE」▶「通話」▶「再接続機能」▶アラーム音を選択

「アラームなし、アラーム高音、アラーム低音」から選択します。

おしらせ
- 再接続されるまでの間（最長約10秒間）も通話料金がかかります。

周囲の騒音を抑えて通話を明瞭にする 〈ノイズキャンセラ〉

周囲の騒音を抑え、音声通話やテレビ電話の声を相手に聞きやすくします。

1 MENU▶「SETTINGS／SERVICE」▶「通話」▶「ノイズキャンセラ」▶「ON」または「OFF」

車の中で手を使わずに話す 〈車載ハンズフリー〉

FOMA端末を車載ハンズフリーキット01（別売）やカーナビなどのハンズフリー対応機器と接続することにより、ハンズフリー対応機器から音声電話の発着信などの操作ができます。
ハンズフリー対応機器の操作については、各ハンズフリー対応機器の取扱説明書をご覧ください。なお、車載ハンズフリーキット01をご利用時には、FOMA 車載ハンズフリー接続ケーブル01（別売）が必要です。

おしらせ
- ハンズフリー対応機器から操作する場合は、USBモード設定を「通信モード」にしてください。
- 着信時のディスプレイ表示や着信音などの動作は、FOMA端末の設定に従います。
- ハンズフリー対応機器から音を鳴らす設定にしている場合、FOMA端末でマナーモード設定中や着信音量を「消去」に設定中でも、ハンズフリー対応機器から着信音が鳴ります。
- 公共モード（ドライブモード）設定中の着信動作は、「公共モード（ドライブモード）」の設定に従います。
- 伝言メモ設定中の着信動作は、「伝言メモ」の設定に従います。
- FOMA端末から音を鳴らす設定にしている場合、通話中にFOMA端末を閉じたときの動作は、「クローズ動作設定」の設定に従います。ハンズフリー対応機器から音を鳴らす設定にしている場合、「クローズ動作設定」の設定にかかわらず、FOMA端末を閉じても通話状態は変わりません。

音声電話／テレビ電話を受ける

※N-04Aには内側カメラがないため、テレビ電話で相手に送信する画像は代替画像（キャラ電）または外側カメラの映像になります。なお、代替画像（キャラ電）は「画像選択」でマイピクチャの画像などに変更することができます。→P.75

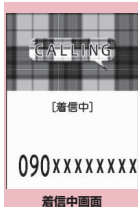
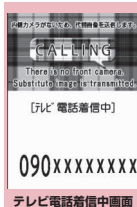
- 「スライドアクション設定」（P.351）の「着信応答」を「ON」にすると、FOMA端末を開いたときに通話状態になり、すぐに通話に出られます。
- FOMA端末を閉じたまま通話することはできません。

1 音声電話、テレビ電話を着信する

着信音が鳴り、イルミネーションランプが点滅します。

■ 着もじが付いた着信の場合

着信中画面、テレビ電話着信中画面に着もじが表示されます。→P.62

着信中画面
機能メニュー➡P.67

テレビ電話着信中画面
機能メニュー➡P.67

■ 着信中に音声電話／テレビ電話を応答保留にする場合→P.70

2 [通話キー]

■ テレビ電話中の操作について

テレビ電話では、代替画像とカメラ映像を切り替えたり、送信する音声をミュート（消音）するなど、テレビ電話中にさまざまな操作が行えます。→P.54

■ ハイパークリアボイスの設定を切り替える場合→P.59

■ 通話中に相手が音声電話／テレビ電話の通話を切り替えた場合→P.68

■ 通話中の音声電話／テレビ電話を保留にする場合→P.70

■ FOMA端末で通話するかBluetooth機器で通話する（P.375）かを切り替える場合

▶[通話キー]（1秒以上）

3 通話が終了したら [終話キー]

着信中の表示

■相手の電話番号が通知されたとき

相手の電話番号が画面に表示されます。電話帳に登録されている相手からの着信の場合、電話帳に登録した名前が画面に表示されます（「端末暗証番号有無」を「あり」に設定したキー操作ロック中は名前のみ表示されます）。→P.80

- 同じ電話番号を異なる名前で複数の電話帳に登録していると、電話帳のフリガナの検索順による最初の名前が表示されます。→P.83
- シークレットデータとして登録されている場合は名前などは表示されず、電話番号のみ表示されます。
- マルチナンバーの付加番号に着信した場合は、着信中画面に付加番号の登録名が表示されます。

■相手の電話番号が通知されなかったとき

発信者の非通知理由が表示されます。

機能 着信中画面／テレビ電話着信中画面（P.67）

着信拒否……電話を受けないで着信をそのまま切ります。

転送でんわ……「転送でんわサービス」の「開始、停止」にかかわらず転送先に接続します。

留守番電話……「留守番電話サービス」の「開始、停止」にかかわらず留守番電話サービスセンターへ接続します。

表示切替……付加番号1または付加番号2から転送元番号に表示を切り替えます。マルチナンバー（付加番号1または付加番号2）着信で、かつ転送でんわ着信のときに選択できます。

おしらせ

- イヤホンマイク（別売）を使って電話を受けることができます。→P.369
- キャッチホン、留守番電話サービス、転送でんわサービスのいずれかをご契約されていれば、「通話中着信設定」を有効にし、「通話中の着信動作選択」を「通常着信」に設定すると、通話中に別の電話がかかってきたときに「ププ…ププ…」という通話中着信音が鳴ります。
  - 留守番電話サービス、転送でんわサービスをご契約の場合、現在の通話を終了して着信に応答することができます。
  - キャッチホンをご契約の場合、音声電話は、現在の通話を保留にして着信に応答することができ、テレビ電話は現在の通話を終了して着信に応答することができます。

次ページにつづく

おしらせ

- 電話帳に登録されていない相手からの動作を設定することができます。→P.131
- 電話帳に登録されている電話番号ごとに着信を制限することができます。→P.129

<テレビ電話>

- カメラ映像から代替画像（キャラ電）に切り替える場合、キャラ電によっては切り替えに数秒程度の時間がかかることがあります。

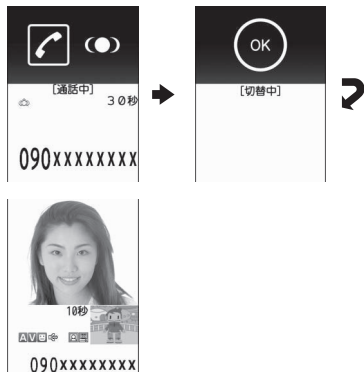
相手が音声電話／テレビ電話を切り替えたとき

相手からかかってきた音声通話中／テレビ電話中に、相手が操作を行うことにより音声電話とテレビ電話が切り替わります。

- 着信側からは切り替え操作を行うことができません。
- 切り替え操作を行うには、あらかじめ着信側が「テレビ電話切替機能通知」を通知するように設定しておく必要があります。→P.75
- 音声電話⇔テレビ電話切り替え対応端末どうしでご利用いただけます。

<例：相手が音声電話からテレビ電話に切り替えた場合>

1 通話中画面（P.54）▶相手がテレビ電話切り替えを行う

切り替え中は、切り替え中であることを示す画面が表示され、音声ガイダンスが流れます。
テレビ電話に切り替わると、代替画像が相手側に送信されます。

■ テレビ電話から音声電話に切り替えた場合

▶テレビ電話中画面（P.54）▶相手が音声電話切り替えを行う
音声電話に切り替わります。

ダイヤルボタンを押して電話に出る 〈着信アンサー設定〉

電話がかかってきたとき、すぐに着信音を止めたり、電話に出られるように設定します。

1 MENU▶「SETTINGS／SERVICE」▶「着信」▶「着信アンサー設定」▶以下の項目から選択

エニーキーアンサー……音声電話に対して有効な機能で、以下のボタンで通話を開始できます。
[発信]、[■]［通話］、[0]～[9]、[＊]、[CLR]、[メール]、[i]、[方向キー]
※テレビ電話の場合、通常のボタン操作（[発信]、[■]［代替画像］）でのみ通話を開始できます。

クイックサイレント……以下のボタンを押すかFOMA端末を開くと、相手には呼び出し音を鳴らしたまま、着信音を止めることができます。
[0]～[9]、[＊]、[CLR]、[方向キー]、[i]または[メール]（音声電話のみ）
電話に出るときは、[発信]、[■]［通話／代替画像］を押します。

OFF……通常のボタンでのみ通話を開始できます。
[発信]、[■]［通話／代替画像］

おしらせ

- 「クイックサイレント」に設定していても、スライドアクション設定で「着信応答」を「ON」に設定していると、FOMA端末を開いたときに通話を開始します。
- 「クイックサイレント」に設定していても、マナーモード設定中は「エニーキーアンサー」として機能します。
- 「エニーキーアンサー」や「クイックサイレント」に設定中でも、[5]（ECOモードのON／OFF）や[8]（プライバシーアングルのON／OFF）を1秒以上押すと、「エニーキーアンサー」や「クイックサイレント」は動作しません。

FOMA端末を閉じて通話を終了／保留する 〈クローズ動作設定〉

音声通話中やテレビ電話中にFOMA端末を閉じたときの動作を設定します。

1 [MENU]▶「SETTINGS／SERVICE」▶「スライド設定」▶「クローズ動作設定」▶以下の項目から選択

ミュート……音声をミュート（消音）します。保留音は流れません。

保留……通話を保留（通話中保留）にします。閉じている間、相手に保留音が流れます。テレビ電話の場合、相手側に通話中保留画像が送信されます。

スピーカー鳴動する……相手に保留音が流れ、スピーカーからも保留音が流れます。

スピーカー鳴動しない……相手にのみ保留音が流れます。

終話……通話を終了します。[終話]を押す操作と同じです。

おしらせ

- マナーモード設定中は「スピーカー鳴動する」を選択していてもスピーカーから音は鳴りません。
- イヤホンマイク（別売）を接続している場合、本機能は無効になります。
- 「保留」に設定していても、「キャッチホン」で切り替え通話しているときにFOMA端末を閉じると「ミュート」の動作になります。

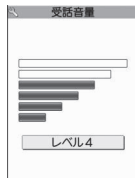
相手の声の音量を調節する 〈受話音量〉

1 待受画面表示中▶[▲▼]（1秒以上）▶[▲▼]で音量を調節

[▲▼]（1秒以上）で受話音量画面が表示されます。受話音量画面の表示中に2秒以上操作がなければ、受話音量調節を終了します。
「レベル1」（最小）～「レベル6」（最大）の6段階で調節します。

■ 通話中に調節する場合
▶[▲▼]

おしらせ

- 通話中に調節した音量は、通話が終わっても設定は保持されます。

着信音の音量を調節する〈着信音量〉

電話がかかってきたときや、メールやチャットメール、メッセージR／F、ｉコンシェルのインフォメーションを受信したときの着信音の大きさをそれぞれ6段階で調節します。また、着信音を消したり、次第に音量を大きくすることもできます。

- 鳴りはじめのスピーカー音量を制限することもできます。→P.96

1 [MENU]▶「SETTINGS／SERVICE」▶「着信」▶「着信音量」▶音量を調節する項目を選択

「電話」を選択すると、音声電話、64Kデータ通信などの着信音量が調節されます。
「メール」を選択すると、ｉモードメール、エリアメール、SMS、パケット通信の着信音量が調節されます。

2 [▲▼]で音量を調節▶[■]［確定］

■ 次第に音量を大きくする場合
▶「レベル6」のときに[▲]
「ステップ」に設定すると、3秒ごとに着信音量が大きくなります。

■ 着信音を消す場合
▶「レベル1」のときに[▼]

おしらせ

- 本機能で設定した「電話」の着信音量は、音声電話の「着信音選択」「スケジュール」や「To Do リスト」のアラーム音などに反映されます。
- 通話終了直後などは、着信音は小さな音量で鳴り、「着信音量」で設定した音量まで徐々に大きくなります。

着信中や通話中の電話を保留にする 〈応答保留／通話中保留〉

＜例：着信中の電話を保留にする場合＞

1 着信中▶[終話]

「ピッピッピッ」という音が鳴り、応答保留の状態になります。
相手には現在応答できないとのガイダンスが流れ、電話がつながった状態のまま保留されます。

■ 通話中の電話を保留にする場合
▶通話中▶[CLR]

■ 応答保留中／通話保留中に電話を切る場合
▶[終話]

2 電話に出られるようになったら[通話]

■ 通話保留中の場合
▶[通話]または[CLR]▶「YES」

おしらせ

- 応答保留中や通話保留中でも、通話料金がかかります。

保留音を設定する 〈保留音設定〉

応答保留中に、相手に流れるガイダンスを設定します。

- 通話中の保留音を変更することはできません。

1 [MENU]▶「SETTINGS／SERVICE」▶「通話」▶「保留音設定」▶「応答保留音」▶保留音を選択

「応答保留音1、応答保留音2、おしゃべり1※、おしゃべり2※」から選択します。
※：おしゃべりが録音されていないときは利用できません。

公共モードを利用する

公共モード（ドライブモード／電源OFF）は、公共性の高い場所でのマナーを重視した自動応答サービスです。

- 公共モードと各ネットワークサービスを同時に設定している場合、留守番電話サービス※1、転送でんわサービス※1、番号通知お願いサービス※2は、公共モードに優先して動作します。
  ※1：呼出時間が「0秒」以外での音声電話に対しては、公共モードのガイダンスの後にサービスが動作します。
  ※2：相手が電話番号を通知している場合は、公共モードが動作します。
- 迷惑電話ストップサービスで着信拒否した相手からの電話に対しては、公共モードは動作しません。

公共モード（ドライブモード）を利用する 〈公共モード（ドライブモード）〉

公共モードに設定すると、電話をかけてきた相手に運転中もしくは通話を控える必要のあるような場所（電車、バス、映画館など）にいるため、電話に出られないことを通知するガイダンスが流れて通話を終了します。

- 公共モードの設定／解除は、待受画面表示中のみできます（「圏外」のときも可能です）。
- 公共モードを設定中でも電話をかけることができます。
- 本機能は、データ通信中はご利用できません。
- 番号通知お願いサービスを「開始」に設定中に「非通知設定」の着信をした場合、番号通知お願いガイダンスが流れます（公共モードのガイダンスは流れません）。

1 待受画面表示中▶[＊]（1秒以上）

公共モードに設定され、「[ドライブモードアイコン]」が表示されます。

電話をかけてきた相手に「ただいま運転中もしくは携帯電話の利用を控えなければならない場所にいるため、電話に出られません。のちほどおかけ直しください。」というガイダンスが流れます。

■ 公共モード（ドライブモード）を解除する場合
▶待受画面表示中▶[＊]（1秒以上）
公共モードが解除され、「[ドライブモードアイコン]」の表示が消えます。

おしらせ

- 「伝言メモ」を「ON」に設定していても公共モードが優先されます。
- マナーモードを同時に設定しているときは、公共モードの設定が優先されます。

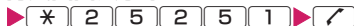
おしらせ

- 公共モード設定中に緊急通報番号（110番、119番、118番）へ音声電話をかけると、公共モードが解除されます。
- 公共モード設定中には、以下の音が鳴りません。
  - 音声電話／テレビ電話着信音
  - メール、メッセージなどの着信音
  - 各種アラーム音
  - ウェイクアップ音
  - スライド音
  - 充電確認音
  - ｉアプリのソフトの鳴動
  - パケット通信／64Kデータ通信着信音

● 公共モード（ドライブモード）を設定すると

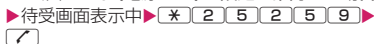
FOMA端末に音声電話、テレビ電話の着信があっても着信音は鳴りません。「着信履歴」には「不在着信履歴」として記憶され、「不在着信あり」のデスクトップアイコンが待受画面に表示されます。

- 音声電話をかけてきた相手には、運転中もしくは携帯電話の利用を控えなければならない場所にいるため電話に出られないことを通知するガイダンスが流れ通話を終了します。
- テレビ電話をかけてきた相手には、公共モードの映像ガイダンスを表示した後、通話を終了します。
- メールを受信したときには着信音は鳴らずに「新着メールあり」のデスクトップアイコンが待受画面に表示されます。

おしらせ

- 公共モード設定中でも、電源が入っていない場合や「圏外」の場合は、公共モードの通知はされずに「圏外」のときと同じガイダンスが流れます。

公共モード（電源OFF）を利用する
〈公共モード（電源OFF）〉

公共モード（電源OFF）に設定すると、電源を切っている場合の着信時に、電話をかけてきた相手に電源を切る必要がある場所（病院、飛行機、電車の優先席付近など）にいるため、電話に出られないことを通知するガイダンスが流れ、通話を終了します。

1 待受画面表示中
▶[＊][2][5][2][5][1]▶[発信]

公共モード（電源OFF）が設定されます（待受画面上の変化はありません）。
公共モード（電源OFF）設定後、電源を切った際の着信時に「ただいま携帯電話の電源を切る必要がある場所にいるため、電話に出られません。のちほどおかけ直しください。」というガイダンスが流れます。

■ 公共モード（電源OFF）を解除する場合
▶待受画面表示中▶[＊][2][5][2][5][0]▶[発信]

■ 公共モード(電源OFF)の設定を確認する場合
▶待受画面表示中▶[＊][2][5][2][5][9]▶[発信]

● 公共モード（電源OFF）を設定すると

「＊25250」をダイヤルして公共モード（電源OFF）を解除するまで設定は継続されます。電源を入れるだけでは設定は解除されません。
サービスエリア外または電波が届かないところにいる場合も、公共モード（電源OFF）ガイダンスが流れます。

- 音声電話をかけてきた相手には、電源を切る必要がある場所にいるため、電話に出られないことを通知するガイダンスが流れ、通話を終了します。
- テレビ電話をかけてきた相手には、公共モード（電源OFF）の映像ガイダンスを表示した後、通話を終了します。

かかってきた電話に出られなかったとき 〈不在着信〉

かかってきた電話に出られなかったとき、待受画面に[不在]が表示されます。[不在]を選択すると、着信日時や発信者の名前などを確認できます。

- 「スライドアクション設定」(P.351)の「不在着信履歴閲覧」を「ON」にすると、FOMA端末を開いたときにすぐに電話の相手を確認できます。

1 待受画面表示中▶[■]▶「[不在]」を選択

「不在着信履歴一覧画面」が表示されます。

● イルミネーションランプの点滅について

不在着信や新着メール、新着チャットメールなどがあるとイルミネーションランプが、それぞれの設定色に従って点滅し続けます。

- 電話／テレビ電話：「電話」の設定色
- 新着メール：「メール」の設定色
- 新着チャットメール：「チャットメール」の設定色

■点滅色・点滅条件について

- 「着信イルミネーション」の不在お知らせを「OFF」に設定すると、点滅しません。
- 「着信イルミネーション」でグラデーションを設定している場合は、お買い上げ時の設定色で点滅します。
- 電話帳に、個別の着信イルミネーションを設定できます。→P.86
- 公共モード(ドライブモード)中は点滅しません。

■消灯するときは

- ディスプレイに表示されている「不在着信あり」「新着メールあり」「新着チャットメールあり」のアイコンを選択して内容を確認するか、CLR(1秒以上)を押します。

電話に出られないときに用件を録音／録画する 〈伝言メモ〉

音声電話やテレビ電話に出られないときに、かけてきた相手の用件をお客様に代わってFOMA端末に録音／録画します。

- 1件につき最大20秒で、音声電話は5件、テレビ電話は2件まで録音／録画できます。

伝言メモを設定する

1 MENU▶「SETTINGS／SERVICE」▶「着信」▶「伝言メモ」▶以下の項目から選択

ON……応答メッセージの種類を「標準、プライベート、英語、おしゃべり1※、おしゃべり2※」から選択し、伝言メモを設定します。

OFF……伝言メモの設定を解除します。

※：おしゃべりが録音されていないときは利用できません。

2 呼出時間(000～120秒の3桁)を入力

伝言メモが設定され、待受画面に「[アイコン]」と「[アイコン]」が表示されます。

おしらせ

- 「留守番電話サービス」や「転送でんわサービス」を伝言メモと同時に設定しているときに伝言メモを優先させるには、留守番電話サービスや転送でんわサービスの呼出時間よりも伝言メモの呼出時間を短く設定してください。
- 「呼出時間表示設定」で設定した無音時間が伝言メモの呼出時間よりも長いと、呼出動作を行わず伝言メモに移行します。呼出動作を行ってから伝言メモに移行させるには、伝言メモの呼出時間を無音時間よりも長く設定してください。
- 「個別着信音／画像」で電話番号ごと、「グループ着信音／画像」でグループごとに応答メッセージを設定することもできます。

伝言メモを「ON」に設定中に電話がかかってくると

設定した時間を経過すると伝言メモが起動します。

- 音声電話をかけてきた相手には、応答メッセージが流れ録音を開始します。
- テレビ電話をかけてきた相手には、「伝言メモ準備中 Preparing」画像を送信し応答メッセージを再生、「伝言メモ録画中 Recording」画像を送信し録画を開始します。

■伝言メモの録音／録画がはじまると

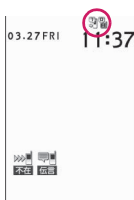
- 録音／録画中の画面が表示されます。録音中はFOMA端末を開いていると受話口から相手の声が聞こえます。

■録音／録画中に音声電話、テレビ電話に出る場合

▶

例：音声電話

■伝言メモの録音／録画が終了すると

- 元の画面に戻り、待受画面には「不在着信あり」と「伝言メモあり」または「テレビ電話伝言メモあり」のデスクトップアイコンが表示されます。デスクトップアイコンを選択すると、それぞれの内容を確認できます。
→P.73

- ディスプレイ上部のアイコン表示エリアには、それぞれの録音／録画件数を示すアイコンが表示されます。
  - ～ ：音声電話伝言メモあり（数字は件数）
  - ／ ：テレビ電話伝言メモあり（数字は件数）

※自動音声メモがONの場合は、以下のようなアイコンが表示され、件数は表示されません。
  - ：音声電話伝言メモあり
  - ：音声電話伝言メモ・自動音声メモともにあり

おしらせ

- 伝言メモの録音／録画中はほかの電話がかかってきても受けることができません。
- マナーモードを設定している場合、録音中の相手の声は聞こえません。

着信中の電話に出られないときに用件を録音／録画する

〈クイック伝言メモ〉

伝言メモを「ON」に設定していなくても、着信中にボタン1つで用件を録音／録画します。

1 着信中▶

伝言メモの録音／録画が開始されます。

■ 伝言メモの録音／録画開始と同時にマナーモードに設定する場合

▶着信中▶#

おしらせ

- この操作で「伝言メモ」を「ON」に設定することはできません。
- 録音／録画件数がいっぱいのときに音声電話やテレビ電話がかかってきた場合は、伝言メモは起動せず着信し続けます（#を押したときは、「マナーモード選択」で設定された動作条件で着信し続けます）。

伝言メモや音声メモを再生／消去する

伝言メモ、テレビ電話伝言メモ、音声メモ、自動音声メモを再生／消去します。

- 未再生の伝言メモがある場合は待受画面に「」（伝言メモあり）または「」（テレビ電話伝言メモあり）が表示されます。

<例：未再生の伝言メモを確認する場合>

1 待受画面表示中▶■▶「」（伝言メモあり）または「」（テレビ電話伝言メモあり）を選択

録音／録画されている項目に「★」が付きます。

音声メモの再生／消去画面

■ メニュー操作で再生する場合

▶MENU▶「LIFEKIT」▶「音声メモの再生／消去」または「動画メモの再生／消去」

■ 伝言メモや音声メモを消去する場合

▶ch［機能］▶消去方法を選択

■ 機能をデスクトップに貼り付ける場合

▶ch［機能］▶「デスクトップ貼付」

電話／テレビ電話

❷ 再生する項目を選択

<伝言メモ／音声メモ／自動音声メモ>
「ピッ」という音が鳴って再生がはじまります。再生が終了すると「ピッピッ」という音が鳴り、「音声メモの再生／消去画面」に戻ります。

■ 再生中に次のメモを再生する場合
▶[ﾏﾅｰ]
[ﾏﾅｰ]を押すごとに、伝言メモ→音声メモ→自動音声メモの順に新しいものから再生されます。

■ 停止する場合
▶[■]［停止］または[CLR]
「音声メモの再生／消去画面」に戻ります。

<テレビ電話伝言メモ>
再生がはじまります。再生が終了すると、「動画メモの再生／消去画面」に戻ります。

■ 再生中に別のメモを再生する場合
▶[左右]

■ 再生中に音量を調節する場合
▶[上下]

■ 再生中にスピーカーのON／OFFを切り替える場合
▶[ch]［機能］▶「スピーカーON」または「スピーカーOFF」

■ 再生を一時停止する場合
▶[■]［停止］
再生を再開するときは[■]［再生］

■ 停止する場合
▶[CLR]
「動画メモの再生／消去画面」に戻ります。

■ 再生中に表示されている電話番号に音声電話、テレビ電話を発信する場合
▶[発信]（音声電話）、[テレビ電話]［テレビ電話］

■ 再生中のメモを消去する場合
▶[ch]［機能］▶「消去」▶「YES」

おしらせ

- 2in1のモードがAモードまたはBモードの場合、利用していない電話番号で録音した伝言メモには「★」が表示されません。「デュアルモード」に設定している場合は両方で録音した伝言メモに「★」が表示されます。

キャラ電を利用する

テレビ電話でカメラ映像の代わりにキャラクタを送信します。「キャラ電」→P.313

- 「画像選択」の「代替画像選択」から「キャラ電」を設定しておくと、お気に入りのキャラ電を表示できます。
  また、「電話帳」や「個別着信音／画像」にキャラ電を設定しておいてもキャラ電を利用できます。

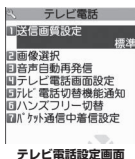
❶ テレビ電話で代替画像（キャラ電）を送信中▶ダイヤルボタンを押してキャラ電を操作する

ダイヤルボタンを押すと、そのボタンに割り当てられているアクションを行います。
「キャラ電を表示して操作する」→P.313

キャラ電

テレビ電話に関する機能について設定する

1 MENU▶「SETTINGS／SERVICE」▶「テレビ電話」

テレビ電話
1送信画質設定 標準
2画像選択
3音声自動再発信
4テレビ電話画面設定
5テレビ電話切替機能通知
6ハンズフリー切替
7パケット通信中着信設定

テレビ電話設定画面

2 以下の項目から選択

送信画質設定……テレビ電話中の画質を「標準、画質優先、動き優先」から選択します。

画像選択→P.75

音声自動再発信……テレビ電話に接続できなかった場合、音声電話に切り替えて電話をかけるかどうか（ON、OFF）を設定します。

テレビ電話画面設定

親画面表示……親画面に表示される映像を「親画面相手画像表示、親画面自画像表示」から選択します。

テレビ電話切替機能通知→P.75

ハンズフリー切替……テレビ電話での通話開始時に、自動的にハンズフリーに切り替えるかどうか（ON、OFF）を設定します。

パケット通信中着信設定→P.76

テレビ電話中に送信する画像を設定する 〈画像選択〉

- 設定できる画像は、ファイルサイズが100Kバイト以下で、横854×縦854ドット以下のJPEG画像、横854×縦480、横480×縦854ドット以下のGIF画像です（ただし、ファイル制限が設定されている画像は除く）。

1 テレビ電話設定画面（P.75）▶「画像選択」▶以下の項目から選択

応答保留選択、通話保留選択（通話中保留）、**代替画像選択、伝言メモ選択**（伝言メモ録画中）、**伝言メモ準備選択**（応答メッセージ再生中）、**音声メモ選択**（音声メモ録音中）

2 送信する画像を選択

内蔵……メッセージのみを送信します。

自作……画像とメッセージを送信します。

キャラ電※……「代替画像設定」（P.314）で設定されているキャラ電を送信します。
キャラ電の優先順位→P.82

※：「代替画像選択」を選択したときのみ利用できます。

■ 自作画像／キャラ電を変更する場合
▶ch［機能］▶「設定内容変更」

音声電話とテレビ電話の切り替えについて設定する 〈テレビ電話切替機能通知〉

自分のFOMA端末が音声電話とテレビ電話の切り替えが可能な端末であることを、相手側のFOMA端末に通知するかしないかを設定します。

- 「切替機能通知停止」に設定すると、切り替えることができなくなります。
- 通話中または「圏外」のときは、本機能の設定を行うことはできません。

1 テレビ電話設定画面（P.75）▶「テレビ電話切替機能通知」▶以下の項目から選択

切替機能通知開始、切替機能通知停止、切替機能通知設定確認

ｉモード中にテレビ電話がかかってきたときの応答方法を設定する
〈パケット通信中着信設定〉

- ●テレビ電話はマルチアクセスを使用できないため、ｉモード通信中やメールの送受信中のテレビ電話の着信に対しては、本機能の設定に従って動作します。→P.445

1 テレビ電話設定画面（P.75）▶「パケット通信中着信設定」▶以下の項目から選択

テレビ電話優先……テレビ電話の着信中画面に移ります。テレビ電話の着信に応答するとｉモード通信が切断されます。

パケット通信優先……テレビ電話の着信を拒否します。

留守番電話……留守番電話サービスをご契約されている場合、「留守番電話サービス」の「開始、停止」にかかわらず留守番電話サービスセンターに接続します。ご契約されていない場合は、「パケット通信優先」の動作になります。

転送でんわ……転送でんわサービスをご契約されている場合、「転送でんわサービス」の「開始、停止」にかかわらず転送先に接続します。転送先を設定していないときやご契約されていない場合は、「パケット通信優先」の動作になります。

おしらせ

<送信画質設定>
- ●テレビ電話中に電波状況が悪くなった場合、「送信画質設定」の設定内容にかかわらず、画像がモザイク表示になるときがあります。

<画像選択>
- ●貼り付け元の静止画を削除すると、「内蔵」の静止画が表示（送信）されます。
- ●代替画像に設定したキャラ電を削除したときなど、「キャラ電」の代替画像が表示できない場合は、内蔵されているキャラ電「ビーンズ（Beans）」を送信します。内蔵されているキャラ電「ビーンズ（Beans）」が削除されている場合は「内蔵」の静止画の代替画像を送信します。

<音声自動再発信>
- ●音声電話に切り替えて再発信したときの通話料金は、デジタル通信料ではなく音声通話料になります。
- ●再発信が行われたとき、「リダイヤル／発信履歴」には音声電話の履歴だけが記憶されます。
- ●音声自動再発信を「ON」に設定している場合でも、相手が話し中など、ネットワークや相手の状況によって再発信が行われない場合があります。

おしらせ

<ハンズフリー切替>
- ●以下の場合はハンズフリー切替を「ON」に設定していても、自動的にハンズフリーに切り替わりません。
  - •マナーモード設定中の場合
  - •イヤホンマイク（別売）接続中（ただし、マイクは「イヤホンマイク設定」の設定に従います）
  - •着信時に応答保留または伝言メモが起動した場合
- ●相手が音声電話からテレビ電話に切り替えた場合、本設定にかかわらず、テレビ電話に切り替える前の音声通話中に設定していたハンズフリーの設定（P.58）に従います。

<パケット通信中着信設定>
- ●「テレビ電話優先」に設定していても、音声通話中にｉモード通信を行っているときなど、マルチアクセスを使用している場合はテレビ電話の着信に応答することはできません。
- ●「パケット通信優先」「留守番電話」「転送でんわ」に設定した場合、テレビ電話の着信は「着信履歴」に「不在着信履歴」として記憶されます。
- ●「テレビ電話優先」または「パケット通信優先」に設定していても、「留守番電話サービス」や「転送でんわサービス」の呼出時間を0秒に設定している場合は、「留守番電話サービス」または「転送でんわサービス」が有効になります。

外部機器と接続してテレビ電話を使用する

パソコンなどの外部機器とFOMA端末をFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 01／02（別売）で接続することで、外部機器からテレビ電話の発着信操作ができます。
この機能を利用するためには、専用の外部機器、またはパソコンにテレビ電話アプリケーションをインストールし、さらにパソコン側にイヤホンマイクやUSB対応Webカメラなどの機器（市販品）を用意する必要があります。

- USBモード設定を「通信モード」にしてください。なお、外部機器との接続に関する設定は不要です。
- テレビ電話アプリケーションの動作環境や設定・操作方法については、外部機器の取扱説明書などを参照してください。
- 本機能対応アプリケーションとして、「ドコモテレビ電話ソフト」をご利用いただけます。
  ドコモテレビ電話ソフトは、ホームページからダウンロードしてご利用ください。
  （パソコンでのご利用環境などの詳細についてはサポートホームページでご確認ください）

http://videophonesoft.nttdocomo.co.jp/

おしらせ

- 音声通話中は、外部機器からテレビ電話をかけられません。
- キャッチホン、留守番電話、転送でんわのいずれかをご契約いただいていると、音声通話中に外部機器からのテレビ電話の着信があった場合、現在の通話を終了してから着信に応答することができます。外部機器からテレビ電話中に音声電話・テレビ電話・64Kデータ通信の着信があった場合も同様です。